

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

令和 2 年 (2020)

皇紀 2680 年

令和 2 年 新春号【第 116 号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

年頭所感	2 頁
新春初詣	3 頁
早春の行事	4 頁
杜の話題	6 頁
第 6 回フォトコンテスト入選作品発表	11 頁
初宮詣芳名・どんぐり通信	12・13 頁
正月社頭風景	14 頁



大宮幼稚園 創立 70 周年記念園遊会



新春初詣

明けましておめでとーございます
令和二年庚子歳正月

一日 観世流能楽師野村半郎奉納 神能「翁」
二日 小笠原流除魔神事 墓目の儀・大弐式

元旦午前零時、宮司の打ち鳴らす初太鼓と同時に神門が開かれ令和になって初めての正月を迎えます。この瞬間を待ち望んだ多くのご参拝の皆様が長い列が拝殿前へ陸続と続きます。拝殿内では、新春を寿ぐ神能「翁」が人間国宝の観世流能楽師の野村四郎師により奉納。次いで、**新春厄除開運初大祈願祭**（一番祈祷）が宮司奉仕により斎行され、順次新春初祈願祭が奉仕されます。明けて2日午前には、ご宗家小笠原清忠氏率いる小笠原流一門により**小笠原流新春除魔神事、墓目の儀・大弐式**が奉納され、弓威により一年の邪気が祓われます。3日には、皇位の大元を寿ぐ**元始祭**が斎行され大宮八幡宮の一年が始まります。

令和二年庚子歳の新春に当たり
謹んで皇室を中心とする国家の隆昌と
氏子・崇敬者各位のご清福を熟禱申し上げます

宮司 鎌田 紀彦

旧臘四日、天皇皇后両陛下には「黄櫨染御袍」に束帯、「五衣唐衣裳（十二単）」を各々召され、午前には賢所並びに皇靈殿、神殿に大嘗祭を終えられたことを奉告される「親謁の儀」、午後4時より「賢所御神楽の儀」をお勤めになり、5月1日「剣璽等承継の儀」に始まる「即位礼正殿の儀」一世二度の重要祭祀「大嘗祭の儀」等御大札の重儀を無事済まされ、誠に喜ばしく欣快の至りに存ずる次第であります。

当宮では10月22日、**即位の礼当日祭**を斎行させて頂き、直会で正殿の儀の様子をテレビで拝観。天皇皇后両陛下が天つ日嗣の高御座、御帳台へ昇られ、御即位を内外に宣明される頃、雨も上がり、虹がさしている瑞祥を陪観させて頂きました。

内閣総理大臣が寿詞を述べられ、萬歳三唱の際には参会者一同も起立して合わせて二度目の萬歳三唱を致しました。皆明るい笑顔で我が国の永い伝統に基づく、第126代の天皇様の御即位を心から寿ぎ合っている姿をみて、これぞ君民一体の姿と更なる敬慕の念を強くさせて頂きました。

11月14日、**大嘗祭当日祭**を斎行させて頂き、神社本廳幣を奉幣し、氏子崇敬者より多くの献納品を庭積机代物として捧げられる中、五穀豊穣に感謝しご皇室を中心とする日本国の隆昌と更なる世界の平和を祈念し、ご献納の方々のご繁栄と氏子・崇敬者の方々のご平安を祈願致しました。

参列の方には紅白餅と大嘗祭当日祭の新穀米を小袋に入れ撤下し、一般参拝者の方々へも授与致しました。

又、11月9日の皇居前での御即位を祝う国民祭典にも参列させて頂き、二重橋に**出御された**

天皇皇后両陛下下のご即位を提灯と国旗の小旗を振ってお祝いすることが出来ました。尚、午後17時御歳100歳で神上がりましてより1750年、その日を太陽暦に換算して6月3日（宮内庁陵墓要覧）に山後を遙拝して式年大祭を斎行致しました。

本年よりこの日に**神功皇后祭**を斎行致します。

ご祭神の神功皇后様には仲哀天皇神上がられし後、その遺志を継ぎ男装をして、しかも応神天皇（胎中天皇）を身ごもられたまま「三韓の平定」に向かわれ、凱旋後無事ご出産になられました。中世の文書には、天照皇大神様の再来といわれ、勇猛果敢な統治能力のすぐれた十五代の女帝と記され、八幡大神（応神天皇のご生母、聖母大神（聖母大菩薩）としてもご神威を発揚され、根強い崇敬を受けられてきました。当宮では、古来より戌の日には、安産祈願で多くの方々が参りされます。聖母大神（聖母大菩薩）と八幡大神（八幡大菩薩）の母子信仰（聖母信仰）が当宮にも伝承されているのです。

NHKテキスト 趣味どきっ！
幸せ運ぶ！ニッポン神社めぐり
講師 國學院大學教授 平藤喜久子先生
に取り上げられました。
第3回 母は強し、子は宝！大宮八幡宮（東京）
安産・子育ての神様 神功皇后・応神天皇
12月17日と24日にEテレで放映されます。
なお、神功皇后様の武者絵幟の室内用が外拝殿に飾られています。

八幡太郎源義家公御尊像のこと
異業種交流の会で明治神宮奉職の時代から旧交のある府中在住の素交の集い、五友会事務局長桑田忠幸氏が即位礼当日祭に参列されました。因みに五友とは**新しい友、親しい友、信じる友、真の友、心の友**のシンユウから命名。又、素交は安岡正篤先生のことばかり。
久しぶりに色々とお話している中で、当宮の創建の話題となりました。鎮守府將軍源頼義公と子息義家公（八幡太郎）父子が安倍貞任の乱前九年の役を平定して凱旋の途次、石清水八幡宮よりご分霊を戴いて当宮を創建。平成25年（2013）に御鎮座九百五十年式年大祭が行われたこと。その後八幡太郎源義家公は奥州清原の乱後三年の役 平定後、鹿嶋より松の苗千本を持ち帰り社頭に植え社殿を修復し、当宮を管理する宮寺（別当寺）として宝仙寺が阿佐ヶ谷の地に建立されたことなどを話しました。
すると桑田氏が義家公父子が府中大國魂神社に戦勝奉告参拝の折、参道に樺並木を奉納したこと。下つて平成4年には当時の府中ロータリークラブの会長森恭彦氏、美術品蒐集家、が同クラブの創立三十周年記念事業にと、日展作家喜多敏勝氏に制作依頼をされ、馬場大門の樺並木に八幡義家公の銅像が聳え立っていること。そのときの御尊像の原型を10体制作され、残り数体を今も森氏が所蔵しておられるので自分と知己の間柄でもあることから大宮八幡宮に奉納して頂くようにしたいと話はトントン拍子に進みました。
11月20日に桑田氏の仲立ちに依つて、当宮境内に飾られています。



神功皇后と義家公の絵幟に囲まれて

令和二年 新春の祭典と主な行事

- 1月1日 神能「翁」
新春厄除開運初大祈願祭（一番祈祷）
歳旦祭
小笠原流墓目の儀・大弐式
- 1月2日 元始祭
- 1月3日 昭和天皇祭遙拝
- 1月7日 古神札焼納祭（とんど焼き）
- 1月15日 初天神祭「大宮天満宮」
- 1月25日 文化財防火・テーク消防演習
- 2月3日 節分祭
- 2月9日 初午祭「大宮稲荷神社」
- 2月11日 紀元祭
- 2月23日 天長祭
- 3月春分 春季皇霊祭遙拝
- 3月下旬 大宮八幡桜まつり
- 4月3日 神武天皇祭遙拝・本宮遙拝
- 4月29日 昭和祭・春の弓道奉納射会
- 5月3日 大宮八幡宮わかば祭り（春の大祭）
- 5月16日 裏千家献茶式
- 5月16日 御嶽様名神社例祭「御嶽様名社」
- 6月3日 神功皇后祭
- 毎月1日 朔旦祭（どなたでも自由）
- 毎月15日 月次祭（ご参列出来ず）
- 毎月25日 大宮天神月次祭

毎月・お朔日参りを致しましょう

内白幡宮のご祭神でもある、義家公御尊像が令和御大典記念として、所縁ある当宮への貴重な奉納となりました。誠に有難い極みであり大切に扱い扱いたいと思っております。

因みに八幡太郎義家公は文武両道に長けた武人として、古くより五月人形や絵幟りに登場されています。当宮外拝殿の室内絵幟は義家公が勿来閣で歌を詠まれた場面の絵が描かれています。

「吹く風をなこそ聞と思へども」

道も狭に散る山桜かな「千載和歌集」
又、和歌に通じ武勇を誇る歌として前九年の役の衣川の館の戦いで、逃げようとする敵將安倍貞任を呼び止め、振り返った貞任に「衣のたてはほころびにけり」と館に縦糸を掛け、和歌の下の句を問いかけて連歌をしかけると、貞任が「年を経し糸の乱れの苦しさに」と上の句を詠むと 義家公は弓につがえた矢をといて敵將を見送ったことです。激しい戦いの最中でも義家公の振る舞いは優美であると絶賛されたと伝えられています。

「御心令和之給」ということ

11月26日から27日、全国八幡宮連合第40回研修会が大分県本部の当番で宇佐神宮を中心に開催され参加致しました。八幡余多宮に参拝した折のこと、宝物殿に八幡三神像、同若宮神像四軀とともに宇佐八幡託宣集、霊の巻第五が展示されており、その二節に「御心令和之給」と記述され令和の文字が入っていました。

八幡神は「御心を和らげしめ給う」と、即ち御心を和らげて下さっている。「令」とはすばらしいとか良いという意味、「和」は和らぐという意味、「世の中を平和にさせる」「世界が調和され、平和が永遠に達成される」というメッセージが込められていると解説されていました。

「御心令和之給」これから続く令和の御代に八幡さまからの力強い示唆を頂いた様子が致しました。

令和の新春に、八幡大神様の御心に沿いたて奉る様な神明奉仕の生活をしていくべく誓いも新たにしている次第であります。（令和元年12月記）

謹賀新年

令和二年元旦

大宮八幡宮

代表役員宮司

鎌田 紀彦

責任役員

五本木 徳治

藤枝 宏友

内山 誠章

瀬沼 宏章

鈴木 憲章

議長 団 龍雄

青木 光雄

丸山 俊郎

葉梨 俊郎

監査 笠原 紀一

細野 修三

瀬沼 年男

総代 大宮地区 五本木 徳治

荒井 昭一

青木 龍雄

五本木 勝

末柄 哲男

根岸 政明

古屋 進

方南地区 三枝 治太郎

丸山 光男

内山 誠一

相川 雄一

方南北地区 岩崎 美太良

齊藤 憲章

鈴木 憲章

岩田 一豊

- 和田東地区 梅田 清彦
- 横尾 信彦
- 佐野 守央
- 笠原 紀一
- 玉村 恭男
- 和田西地区 飯高 今朝資
- 藤枝 宏友
- 梅田 博一
- 森川 純一
- 葉梨 俊郎
- 松ノ木地区 太田 正男
- 瀬沼 年男
- 瀬沼 宏章
- 松島 敏之
- 井川 邦夫
- 松島 宗次郎
- 小川 宗次郎
- 大宮八幡宮敬神婦人会（りんどう会）
- 会長 鎌田 民枝
- 大宮八幡宮氏子青年会
- 会長 井川 邦夫
- 兼務神社総代会長
- 堀ノ内熊野神社
- 渡谷 達雄
- 成宗白山神社
- 岩田 和保
- 尾崎熊野神社
- 安藤 雄次

はつうま

初午のぼり奉納募集

お稲荷様は、商売繁盛・家内安全のご利益のある神様です。本年も、左記により商売繁盛・家内安全等を祈願の「朱色のぼり」を大宮稲荷神社のご社頭にご奉納賜りますよう、ご案内致しお願い申し上げます。

一、朱色のぼり 一口三、〇〇〇円
(出来れば二対二口以上でお願い致します)
のぼりには、ご氏名(又は会社名)を入れさせていただきます。



大宮稲荷神社初午祭

2月9日午後1時より大宮稲荷神社初午祭が斎行されます。約1300年前の和銅4年の初午の日に京都伏見の峰に稲荷大神が降臨された故事により全国の稲荷神社で斎

成人奉告祭ご案内

新年を迎え新たに成人したことをご神前に奉告し、神明の御加護のもと社会の一員としての自覚を新たにする成人奉告祭を随時ご奉仕しています。ご祈願の新人の皆様には宮司揮毫の千支絵馬を特別授与いたしております。新成人の皆様のご参拝をお待ちしております。

小正月の伝統行事、古神矢・古神札焼納祭(とんど焼き)が、1月15日睦月月次祭に続けて斎行されます。古く宮中では小正月に清涼殿東庭で古書を焼く左義長の儀式が行われました。当宮ではこの故事に基づき、社殿にてまず睦月月次祭に併せて焼納奉告祭が行われ、続いて

古札焼納祭(とんど焼き)斎行



初春の年頭にあたり、恒例の弓の除魔神事。墓目の儀・大的式が、小笠原流ご宗家一門の方々により、1月2日午前10時に行われます。矢先につけた墓蛙に似た鐙の形を墓目といい、鋭い風切り音により魔障を退散させます。大的式は、千五百年前、清寧天皇の御代に射を行った日本書紀の記述に基づく、公家・武家に伝わる重儀で、いずれも当宮の新春の恒例の天下泰平・国家安泰を祈念する弓始めの神事です。

新春恒例の除魔神事、墓目の儀・大的式

大宮八幡宮 早春の行事



紀元祭並びに檀原神宮遥拝

2月11日は建国記念の日(紀元節)で、全国各地で我が国の建国を寿ぐ諸行事が行われます。皇紀二千六百八十年の本年、当宮では午前10時より紀元祭が斎行され、皇室国家の繁栄・国運の隆昌と

立春の前日の節分は四季の変わり目で特に重視されました。悪疫邪気を追い払う追儺神事は中国より渡来したもので、今から1300年ほど前の文武天皇の御宇に記述が見られます。当宮では宮中の例に倣い桃弓・草矢で「天・地・人」に潜む魔を射る卯枝神事を行い、次いで外拝殿前にて宮司により妖魔を祓う鳴弦の儀が行われます。その後鬼のお面を付けた当宮幼稚園園児が参加して行われる豆撒き神事も微笑ましい節分の行事として親しまれています。

2月3日、立春の前日の節分は四季の変わり目で特に重視されました。悪疫邪気を追い払う追儺神事は中国より渡来したもので、今から1300年ほど前の文武天皇の御宇に記述が見られます。当宮では宮中の例に倣い桃弓・草矢で「天・地・人」に潜む魔を射る卯枝神事を行い、次いで外拝殿前にて宮司により妖魔を祓う鳴弦の儀が行われます。その後鬼のお面を付けた当宮幼稚園園児が参加して行われる豆撒き神事も微笑ましい節分の行事として親しまれています。



節分祭(鳴弦の儀・豆撒神事)

行されます。百数十本の鮮やかな朱色の初午のぼりが立ち並ぶなか、のぼり奉納者・崇敬者の参列のもと祭典が斎行されます。また、兼務社の堀ノ内熊野神社・成宗白山神社・尾崎熊野神社・境外社の谷中稲荷神社でも執り行われます。

とんど焼きにご協力をお願い
ご神札等をお納め頂く際に全て点検・選別させて頂き、神社関係以外のもの・燃えないもの・有毒物質の発生の恐れのあるもの(プラスチック製品等)・包装紙は、その場でお持ち帰り頂いております。
◆お守り・古神矢・古神札類(他の神社のもの可)及び正月飾りのみお預かり致します。
◆人形類は、別途社殿におきまして人形感謝祭を斎行してからお納め頂きますので、直接祈願受付所へお申し出下さい。但し、ぬいぐるみはお預かり出来ません。

午前11時半より拝殿前特設斎場にて焼納祭を斎行。参拝者の皆様がお納めになったご神札、お守り、守護矢、注連縄等が積み上げられ、まず古式に則り火鑽神事が行われ熾された浄火により点火。燃えさかるお焚き上げの忌火を前に宮司以下神職が大祓詞を奏上、参列の皆様をはじめ氏子崇敬者各位のこの一年の除災招福を祈ります。また境内では、当宮敬神婦人会(りんどう会)により「厄除ぜんざい」が浄火によって炊かれ、振る舞われます。



2月25日午前10時より初天神祭が斎行されます。学問の神様である菅原道真公に学業成就・技芸上達を祈願します。また、梅の香かおる「梅ヶ香御守」が社頭に特別に授与されます。

勧学祭・ランドセルお祓い

子育て八幡様のご加護を戴き6年間の学校生活の充実と交通安全を祈願して、これから毎日背負うランドセルをお祓いします。小学校への入学は格別に印象深い人生の節目です。小さい背中になきなランドセルを背負って歩く新一年生の姿は可愛らしく頼もしいものです。

世界の平和をご祈念申し上げ、引き続き清涼殿2階の特設斎場で神武天皇をお祀りする檀原神宮を遥拝します。

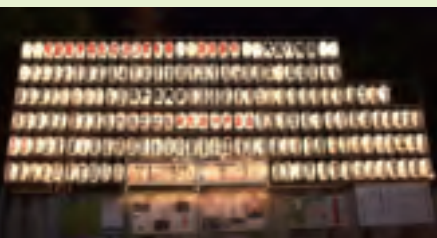


大宮八幡桜まつり

桜の開花に合わせ3月下旬から4月上旬に大宮八幡桜まつりを開催。大宮八幡宮を中心とする和田堀公園(旧境内)一帯は善福寺川沿いの数千本の桜が一斉に咲き誇ります。期間中の土曜・日曜は午後8時まで開門の通り抜けができます。また期間中の土曜午後6時より雅楽演奏夜桜の神遊び(雅楽と神楽のタベ)(無料)を開催、春の宵の雅なひと時をお楽しみいただけます。

新春献燈提灯奉納のご案内

新春の期間、1月1日～2月3日まで、多くの参拝者をお迎えするに当たり、皆様のお名前を入れた献燈提灯を掲出させていただきます。よろしくお願いいたします。



昭和24年1月26日、世界最古の木造建造物である奈良・法隆寺の金堂が不幸にも炎上し焼失しました。このようなことが二度と起きないようにこの日は文化財防火デーと定められ、杉並消防署の指導のもと、消防訓練を行います。当宮の自衛消防隊・杉並消防署・杉並消防団第二分団により毎年実施。午前10時、御社殿より出火を想定して通報、連絡、避難誘導、殿内より貴重品の持ち出し、初期消火等の訓練が行われ、社殿への一斉放水が実施されます。

文化財防火デー消防演習



大宮天満宮初天神祭

1月25日午前10時より初天神祭が斎行されます。学問の神様である菅原道真公に学業成就・技芸上達を祈願します。また、梅の香かおる「梅ヶ香御守」が社頭に特別に授与されます。

新春初祈願祭のご案内

元旦の午前零時、神能「翁」の奉納に続き、その年最初の祈願祭である「新春厄除開運初大祈願祭(一番祈禱)」が宮司奉仕により執り行われます。この祈願祭は、予め予約申込をいただいております。引き続き午前1時より新春初祈願祭を行っております。新春の年頭に当たり氏子・崇敬者の皆様の新しい年のご繁栄をお祈りいたします。ご家庭や職場の皆様の願意に応じて、社頭で随時ご祈願をご奉仕致しております。



新春初祈願祭の受付時間

1月1日午前1時から午後7時30分、23日午前9時から午後7時、4日以降午前9時30分から午後4時30分

1月1日午前8時 歳旦祭
1月3日午前10時 元始祭
1月15日午前10時 月次祭

それぞれ右記の時間に祭典が斎行されます。また、この他新春奉納行事などの参拝の際は終了までお待ち頂く場合がございますので、詳細は社務所までお尋ね下さい。

新春初祈願 企業団体の祈願祭も

新春に当たり氏子崇敬者の皆様の新しい年のご繁栄をお祈りする新春初祈願祭を連日ご奉仕させて頂きます。

又、企業・団体様の仕事始めに合わせて、更なるご発展を祈る祈願祭もご奉仕しております。祈願祭には代表様・従業員の皆様もお揃いでご昇殿頂きます。この新春にお揃いでご祈願を受けられまして、清々しい気持ちで一年の仕事始めとされては如何でしょうか。

新春祈願・企業団体祈願をご希望の方は、社頭の申込書に必要事項をご記入の上、ご予約をお願い致します。※ご神札には、祈願名と代表者名を浄書させて頂きます。

	男	性	前	厄	大	厄	後	厄
			平成9年生(24歳)	昭和55年生(41歳)	昭和36年生(60歳)	平成8年生(25歳)	昭和54年生(42歳)	昭和35年生(61歳)
	女	性	前	厄	大	厄	後	厄
			平成15年生(18歳)	昭和64年生(32歳)	昭和60年生(36歳)	平成14年生(19歳)	昭和63年生(33歳)	昭和59年生(37歳)
	男	性	前	厄	大	厄	後	厄
			平成15年生(18歳)	昭和64年生(32歳)	昭和60年生(36歳)	平成14年生(19歳)	昭和63年生(33歳)	昭和59年生(37歳)
	女	性	前	厄	大	厄	後	厄
			平成15年生(18歳)	昭和64年生(32歳)	昭和60年生(36歳)	平成14年生(19歳)	昭和63年生(33歳)	昭和59年生(37歳)

令和二年厄年表(数え年)

厄年は、古来人生の節目として特に気をつけなければならぬとされている年回りです。厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

新春厄除祈願祭のご案内

※大厄の前年は前厄、後年は後厄にあたります。厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることが出来ます。

各位の隆昌発展を祈念しました。また、献饌に続いて茶道裏千家東京第7西支部奉仕による**奉茶**が行われ、御祭典は厳粛且つ盛大に執り行われました。同日午後6時より第34回**神輿合同宮入り**が行われました。御大典を奉祝して渡御の道筋を延伸、方南通りの大宮八幡入り口を発興された10基の神輿が順々に表参道を進み、神門内大前に練り込み、奉祝の熱気に満ちた神輿振りは最高潮に達しました。また、奉祝行事としては9月8日に弓道場振武殿において振武会門人による奉納射会、15日午後には、小笠原流宗家による弓の神事**草鹿式**が奉納され、期間中は大宮幼稚園園児**民謡踊り・杉並太鼓・方南エイサー踊り**など様々な神賑行事が奉納されました。さらに重陽の節句**菊被締飾り**が9月9日より16日まで清涼殿ロビーにて展示されました。



氏子より寄せられるご浄財が**氏子幣**として大前に奉献され、奉幣使藤枝宏友責任役員が氏子祈願詞を奏上し、秋の実りに感謝と皇室国家の安泰と**氏子崇敬者**

念写真撮影の後、清涼殿の直会で宮司より感謝状が贈呈されました。



東京都八幡会（会長・当宮鎌田宮司）研修旅行が、10月2日～4日に「秋田県・山形県八幡信仰を訪ねて」と題して、参加者10名にて行われました。まず、早朝に羽田空港に集合し、最初の参拝先である大仙市・唐松神社へ。息長帯姫命を祀る唐松神社では、物部長仁宮司様が出迎えご案内下さり、正式参拝後に由緒等拝聴しました。次いで秋田市内の八幡秋田神社、坂上田村麻呂が戦勝祈願をし

東京都八幡会研修旅行 秋田・山形の古社を訪れ



11月1日より11月24日まで秋の恒例行事の令和御大典記念第41回杉並大宮菊花展が杉並大宮菊の会（会長五本木徳治当宮責任役員）主催により開催されました。「753」文字菊の前では例年の如く、七五三詣での家族連れが記念撮影をする光景が見られました。11月6日には審査会が行われ、宮司賞以下各賞を選定。12月10日には、令和御大典記念第41回杉並大宮菊花展

令和御大典記念

第41回杉並大宮菊花展

表彰式が執り行われました。10名出席のもと、まず正式参拝の後、清涼殿にて表彰式。続いて総会・懇親会となりました。

第41回記念杉並大宮菊花展受賞者

宮司賞	瀬戸の鷹 櫛田 晃一
杉並区長賞	泉郷情熱 大和田容三
杉並大宮菊の会会長賞	国華聖者 倉本 栄子
大宮八幡宮責任役員賞	辻の柳 本橋 利夫
京王電鉄賞	堅興優美 五本木秀子
サミット賞	国華金山 中村幸之輔
審査委員長賞	兼六香菊 中村幸之輔
末柄賞	彩胡の優美 倉本 春雄
藤枝賞	国華強大 青木 弘次
八幡前通り商業会賞	堅興優美 松尾 和雄
金賞	精興右近 五本木徳治
金賞	東海錦秋 庄司 衛
金賞	彩胡優美 三上 忠彦
	山田 恭市

たという神宮寺八幡神社を参拝。昼食を挟み、秋田市民俗芸能伝承館へ行き、「秋田竿燈まつり」の実演を鑑賞。その後、日吉八幡神社、古四王神社を参拝。秋田県護国神社では面山浩康宮司様より由緒説明を頂き、社殿裏側の絶景スポットをご案内して頂きました。その後、「男鹿温泉別邸つばき」に宿泊しました。

2日目はまず、真山神社参拝後に真山伝承館・なまはげ館へ。昔ながらの囲炉裏のある家屋に入り、なまはげを体験。次の目的地である増川八幡神社へ。その後、由利本庄市の

杜の話題

令和御大典 奉祝

即位礼当日祭

10月22日午前10時、**即位礼当日祭**が中祭式により斎行されました。五本木責任役員はじめ総代、氏青井川会長、りんどう会鎌田会長、約30名参列。宮中では、午後1時15分、高御座と御帳台の帳が侍従と女官の手により開けられると、両陛下がお姿を見せられ、天皇陛下が即位を内外に宣明されるお言葉を述べられました。続いて安倍晋三内閣総理大臣が寿詞を述べた後、参列者が萬歳を三唱し、これに合わせて皇居外苑の北の丸公園で自衛隊が21発の礼砲を打ち鳴らしました。当宮の直会会場ではこの中継に合わせて萬歳三唱をしました。



即位礼当日祭 大宮幼稚園園児による朝日子の舞

天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典

11月9日、天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典が皇居前広場で行われ、宮司、りんどう会鎌田会長等が参列し、大宮幼稚園



天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典 大宮幼稚園児も参加

年長の園児等がパレードに参加。氏青は会場整備に助勢しました。

大嘗祭前二日大祓（臨時大祓）



11月12日、大嘗祭二日前に当たり宮中にて大祓が行われ、当宮でも**臨時大祓**を神門前特設齋場にて斎行。五本木責任役員、総代、りんどう会役員以下32名参列。

大嘗祭当日祭

11月14日午前10時、**大嘗祭当日祭**が大祭式により斎行。天皇陛下には一世に一度の大嘗祭を11月の中の卯の



庭積机代物



大宮八幡祭り（秋の大祭）

昨年の大宮八幡祭り（秋の大祭）は、令和御大典を奉祝して、まず9月13日に**若宮八幡神社・白幡宮**例祭が斎行され、翌14日に**宵宮祭**が斎行。15日に**例祭併せて氏子奉幣祭**が斎行されました。15日の御祭儀には、神社本庁よりの献幣使として東京都神社庁小野貴嗣庁長（小野照崎神社宮司）が参向され、神社本庁幣を奉幣の後、祭詞を奏上、次いで、大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の6地区の





秋田県護国神社

明治神宮崇敬会 朝霞支部婦人部が来宮

10月4日、獅子倉千代子婦人部長、醍醐清支部長はじめ41名の明治神宮崇敬会朝霞支部婦人部の皆様が、来宮。正式参拝のあと次の目的地へと向かいました。

都神青七十周年記念大会

東京都神道青年協議会の七十周年記念大会が10月8日、東京ドームにて開催され、宮司、りんどう会鎌田民枝会長、氏青井川邦夫会長が出席しました。

第19回十五夜の神遊び・月の音舞台

超大型台風19号の接近に伴い、当初10月12日の開催を14日に変更しての開催となりました。当日は、台風余波の雨模様となり、合間を縫ってご参列の皆様の手により竹筒に火が入れました。また、「月の音舞台」は神楽殿から拝殿での奉納演奏となりました。おなじみの「き乃はち」氏を迎えての尺八の奉納演奏で、ご神前はしばし幽玄の響きに包まれました。



神宮大麻頒布式並びに 氏神社神符等奉戴式



11月5日、令和2年の初春を迎えるにあたり、氏子崇敬者・立正佼成会会員の方々にお頒ちする神宮大麻の頒布式並びに氏神社神符等奉戴式が斎行されました。藤枝宏友責任役員他総代、

都神社関係者大会

10月18日、東京都の神社関係者大会が明治神宮会館にて開催され、宮司、五本木徳治・瀬沼宏章両責任役員が出席しました。宮司は、式典中聖寿萬歳を、氏青井川邦夫会長は、敬神崇祖の誓いを先導唱和しました。



お伊勢様のお札
お伊勢様のお札
氏神様のお札
三宝荒神のお札

御大典を奉祝 八幡太郎義家公御尊像の奉納

今から957年前の康平6年（1063）、当宮を御創建された源頼義、義家父子。御子義家公は7才で氏神石清水八幡宮で元服され、八幡太郎義家と名乗り、その軍功により尊崇されてきました。その御尊像が御大典を奉祝して当宮に奉納され、去る11月20日、奉納奉告祭が斎行されました。

人皇第七十代後冷泉天皇の御代、奥州の豪族安倍貞任の乱（前九年の役）にあたり、鎮守府將軍に任じられ、貞任追討の命を受けた頼義公は永承6年（1051）6月7日、河内香爐峰の居城を出立、途次義家元服と御所での勅命拝命を受け下向。同月25日鎌倉着。征旅を進め29日武蔵の府中に宿営。翌30日当宮の付近を通過の際、雲中に八ツ幡の棚引く奇瑞を見、八幡大神加護の瑞兆と改めて戦勝を祈願。乱平定後の康平6年（1063）、京への凱旋の途次、当宮が創建されました。



府中・大國魂神社参道のケヤキ並木には義家公の銅像が聳え

立ちますが、この銅像はこのほど当宮に奉納された義家公御尊像を原型に奉製されたもの。銅像は府中ロータリークラブ（会長森恭彦氏）設立三十周年記念事業として平成4年馬場大門樺並木に日展作家喜多敏勝氏が制作建立。この原型の御尊像は10軀制作され、美術蒐集家の森元会長が残り数軀を所蔵しておられるとの事で、素交の集い五友会事務局長の桑田忠幸氏の仲立により、令和御大典の記念として、境内白幡宮に頼義公義家公をお祀りする、由縁ある当宮への奉納となったもの。



20日の奉納奉告祭には桑田事務局長が参列。祭典後宮司より受納証が授与されました。御尊像は御本牀高さ39cm、台座7cm、計46cm。前九年の役の戦捷の誇りに満ちた若武者の御姿が刻されています。

尚、義家公は文武両道の英雄として、五月人形や絵幀に登場しています。当宮外拝殿の室内絵幀にも常陸国（茨城県）を抜け奥州へと入る勿来の関で、道も狭くなるほど一面に散る山桜を惜しんだ歌の場面が描かれています。「吹く風をなこそその関と思へども道も世に散る山桜かな」（千載集）

全国八幡宮連合 第40回研修会

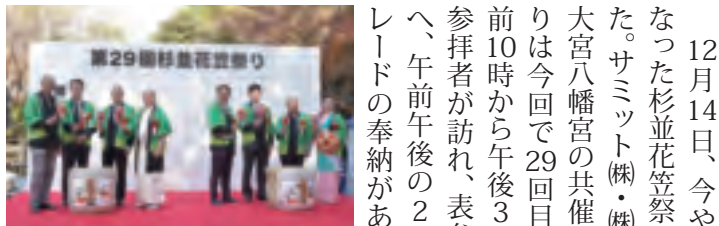
天皇陛下御即位奉祝 全国八幡宮連合第40回研修会が、大分県本部の主催で11月26日・27日に開催され、宮司が出席しました。まず、八幡奈多宮に集合、正式参拝の後ホテル&リゾート別府湾に移動し、研修会開会。「九州における八幡造り」の講演がありました。尚、八幡造りの神社は全国に6社、内4社が大分県下にあり、今回参拝の3社とも八幡造りでありました。懇親会の清興では、「平成大嘗祭主基地方風俗舞」が披露されました。翌日は、宇佐神社でまず令和の御大典記念両陛下のおしるし「梓」と「ハマナス」の記念植樹式があり、その後、ご神前へ進み正式参拝。伊美港よりフェリーで姫島港へ、大帯八幡宮を正式参拝し、大分空港より帰途につきました。

大宮幼稚園園児画展

11月1日より12月8日まで、恒例の大宮幼稚園年中組の園児たちの作品が、神門南側回廊に「家族」をテーマに108点の作品が展示されました。時折、母親に手を引かれ、自分たちの作品を確認する為に見学に訪れる園児の姿が見受けられました。



第29回杉並花笠祭り



12月14日、今や師走の風物詩となった杉並花笠祭りが開催されました。サミット(株)・サミット(株)サミット(株)・大宮八幡宮の共催で行われる花笠祭りは今回で29回目となりました。午前10時から午後3時まで約3万人の参拝者が訪れ、表参道より社殿前へ、午前午後の2回、花笠踊りのパレードの奉納がありました。山形産の農作物や特産品の露店が立ち並び、郷土料理である芋煮や御神酒（六歌仙）などが振る舞われ、暖かな初冬の境内は賑やかさに包まれました。

毎月お朔日参りには 月代り御幣守護を!!

当宮では古くより朔日（一日、十五日）に月参りをされる参拝者の方が多く、こうした方々に年間を通じて八幡大神様のご神威をお受け頂こうと、毎月の朔日祭に併せてお朔日参り大御幣振り神事のご祈願を奉仕して月代りの御幣守護を授与致しております。月毎にお申し込みの場合は初穂料三〇、〇〇〇円、年間一括でお申し込みの場合は初穂料三〇、〇〇〇円にて斎行させて頂いております。





審査委員長賞（優秀賞）

『影狐 秋の木漏れ日に遊ぶ』
宮本康子



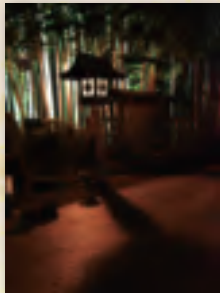
金賞

『竹取りの物語り』 久保田彬洋



銀賞

『宵の八幡宮』 早川幸子



銀賞

『竹林浮かぶ』 佐野志津子



銅賞

『親子愛』 小倉夏希



銅賞

『こんにちわ握手しましょ!』
上原正行



銅賞

『龍神様』
笑い龍明美（小川明美）



金賞

『こども神輿の行進』 新井一夫

大宮八幡宮
第6回フォトコンテスト入選作品発表

密司賞（最優秀賞）

第6回大宮八幡宮フォトコンテストが開催され、7月31日までに大宮八幡宮の四季折々の風景や、祭礼行事を写し撮った16名、計53点の作品が寄せられました。8月30日には、杉本恭子審査委員長はじめ、宮司・審査委員の方々の厳正なる審査のもと、最優秀作品1点、優秀作品1点ほか各賞が選出されました。また、10月14日には正式参拝の後、大宮八幡宮清涼殿「亀の間」にて表彰式が行われました。各賞が次々に発表され、杉本審査委員長より講評、各作品のポイントや撮影のコツなどのアドバイスがなされました。なお、当日は夕刻より第19回十五夜の神遊びが行われ、杉本先生はじめ受賞者の方々は台風之余波小雨模様の中、竹燈に照らされた境内を散策、しばしの撮影会となりました。

令和2年1月1日

大宮

第116号

りんどう会だより

御垣内清掃

9月12日、秋の大祭を控えて御垣内の清掃が行われました。鎌田会長他14名の会員の手により隅々まで掃き清められました。

第12回りんどう会研修旅行
相模寒川神社参拝の旅

11月21日、第12回りんどう会研修旅行が27名の参加により開催されました。早朝神社に集合、まず旅の安全を祈願して出発。交通事情により遅れるも相模國一之宮寒川神社に到着。正式参拝後に神嶽山神苑を拝観。伊豆山温泉ハートピア熱海にて昼食をとり、湯河原スイーツファクトリーを見学。買い物の後、生命の星地球博物館を見学し、御殿場の鈴廣本店にて蒲鉾などお土産を求めて帰途につきました。





立正佼成会杉並教会
新教会長が来宮

立正佼成会杉並教会では12月1日付で千葉和男様が新教会長に就任され、12月9日、就任のご挨拶の為来宮し正式参拝されました。尚、前教会長国富敬二様は、立正佼成会理事長に栄転されました。



受賞、おめでとうございます

当宮責任役員 藤枝宏友氏（杉並防犯協会副会長）は、永年に亘る防犯活動により（防犯功績）藍綬褒賞を受賞されました。今後ますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



NHK Eテレの取材

9月19日・27日の両日、NHK Eテレの25分番組「趣味どきっ！」



大宮幼稚園創立七十周年
記念園遊会

大宮幼稚園は本年創立七十周年を迎え、12月9日に記念の園遊会が開催されました。瀬沼宏章、鈴木憲章両責任役員、りんどう会鎌田民枝会長、氏子青年会井川邦夫会長、茶道教室指導増田宗房先生、六十周年以降の歴代父母の会会長等のご来賓を迎え、全園児の「神前拝詞」から始まり、色とりどりの風船と白鳩の風船リリースで約800名の笑顔をドローンで空撮して閉会となりました。なお園遊会に先立ち、ゲストにロネ&ジージを迎えておたのしみ会を開催し楽しいひとときを過ごしました。



『悠久なる大宮八幡乃杜（乙）』が上梓

この度、御鎮座九百五十年記念事業の報告書である『悠久なる大宮八幡乃杜（乙）——平成から令和の幕開けへ——』が上梓発行となりました。12月15日の師走月次祭辞別で、ご神前に、印刷所から届いたばかりの書籍が奉供され、刊行のことがご奉告されました。



氏子青年会だより

表参道注連縄張り

9月7日、秋の大祭を控えて神輿の合同宮入の渡御道の表参道両側、方南通りに注連縄を張りました。



門松づくりと新春の振る舞い酒

12月22日、年末恒例の門松づくりが行われました。社頭には立派な門松が飾りつけられ、新年を迎える準備が整いました。元日には神門前にて振る舞い酒と八幡そばの模擬店を出店しました。



第7回フォトコンテスト作品募集中

当宮の自然や行事風景を、プロ・アマ問わず写真愛好家の方々の目で写し撮って、その作品を八幡大神様にご奉納頂きます。大宮八幡祭り（秋の大祭）期間中に展示し、ご参拝の皆様楽しんで頂きたく、昨年に引き続きフォトコンテストを開催致しております。

応募期間

令和元年8月1日～
令和2年7月31日

募集サイズ：2L・4切サイズ

大宮八幡宮に係った作品であれば、風景・人物・行事等テーマは自由です。但し、各神事での撮影禁止事項をお守り下さい。

応募作品は一人につき5点までです。

詳細は、社頭やホームページにて要項をご確認下さい。

協力写真店

ホッタカメラ本店（浜田山）
フォトグラフ三光堂（大宮八幡宮入口）
カメラハウス本店（久我山）

※入賞作品の著作権は応募者本人に帰属しますが、使用権は主催者に帰属するものとし、展示や当宮の出版物・広報・インターネット等に無償で使用させて頂きます。（※各媒体掲載時には、氏名のみを掲載させて頂きます。）

- 11 -

- 10 -

初宮詣芳名録

(令和元年7月21日～11月20日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

松葉陸叶	渡邊新大	木村空	戸和龍之介	白坂紬	近藤優采	塩谷柚佳	木田瑚々夏
鈴木初衣	石田結真	松田宗祐	川越慧	井上文楽	日比野七菜	春日悠希	飯島愛菜
芳永龍真	横尾一華	松本薫	上田采和	杉山千都	島田依花	田中沙英	碓井晴太
吉岡直央人	橋崎永菜	小田島翠	大坪俊介	堀川敦生	蒲田涼乃	澤村彩色	布田詩乃
大津陽翔	喜多良龍我	菅原心	岩城いち夏	川口凛夏	小茂田実加	杉岡旬	
城田航太郎	相原志帆	吉野莉生	清水梨太郎	近藤英太	酒井杏	藤井梨緒	
福田莉子	佐藤光	清水梨太郎	日籙ミネル	太田美羽	酒井力	荒川桜里	
風間琉花	木村清大	吾子穂南	小倉悠輝	上田真緒	大場孝介	福井敬子	
宝福理嗣	朝妻茅優	新名律	中川千鳳	木矢村南帆	景井陽梨		
串間奏斗	吉田早玖	松本菜央	永倉灯織	井上航太			
矢澤涼芽	坪井汰樹	三田桜綾	石本翌	橋田航汰			
金子朋暖	小市瑛太郎	福島大稀	川崎瑛斗	富野隼世			
福原実咲	谷本柚葉	龜山瑠莉	井島橙香	長島成佑			
瀧川光希	廣橋大和	千田朋和	石川夏蓮	山口礼華			
古賀あすみ	福井富二	齋藤步	山次遙希	長畑悠良			
阪東光	齋藤ひかり	金丸卓月	伊藤大智	岡地純人			
櫻井花	龍見永紬	角田浩穂	吉野一夏	矢崎澤			
田中彩楓	安藤大志	的場桜	田村暖	小林真大			
土金眞麻	久保知駿	奥脇千渚	佐藤成論	武藤鈴			
齋藤あすは	TRIN	小林菜	國井興	山本巳葉			
星陽道	AHDONG	上平泰士	高屋咲翔	岡村英美里			
本多桜優乃	井田美鈴	関口真	草間銀志	山本巳葉			
土橋桃瑚	太田有咲	佐藤和矢	田口明花	武藤鈴			
土橋隆之介	草村陸月	駒崎匡	田口明花	山本巳葉			
松井初海	丸山にこ	三井田龍翔	鈴木万結	岡村英美里			
新家和生	飯塚友奈	小田愛里彩	池邊英飛	伊藤弘樹			
尼崎一	工藤蓮士	堀唯花	味野七海	堀花栞			
早河新郎	加藤蒼大	赤坂航翼	小林沙和	眞光泰地			
平測賢斗	齊藤礼乃	佐藤那奈	井部宗一朗	大井凌介			
金子航大	松永粹樹	高野杜々子	菅原綾乃	興和陽			
吉田汐織	細田雪乃	佐川尚輝	篠崎絢葉	富島岳			
磯部月紡	谷口紅	橋本昊太郎	服部裕貞	小出渚			
中山咲良	片岡潤乃介	木治屋美柚	樋口晃大	猪俣幸希			
高倉悠介	梅田佳帆	西本采未	青木祐	高橋淳陽			
原菜月	菊田陽毅	黒田健斗	河府諒	長岡美晴			
新居由衣木	清水陽太	奥田捺目	齋藤晏	小平圭悟			
佐野司真	奥田捺目	齋藤晏	城間結衣	大塚昴			
新井將太郎	木村心	川瀧菜乃葉	吉原希美	福壽仁渚			

原帆花	今村文美	酒井瑛叶	茂野壮亮	小鷹麻也	浅井梓	富岡優乃	大見朔太郎
大庭彰采	幸田彩花	粕田咲花	倉林琉空	細見大地	谷應太郎	稲川陽真	吉田壮佑
波岡排那望	佐野令乙	徳永陽大	安本源基	上原煌	井村僚	成田結菜	大内春翔
波岡吉	阿部佑美	高橋晴	濱田悠聖	上原碧葉夏	大木葵葉	佐伯華杜	國富結衣
川和空叶	久々江晴	前田柚和	平野太智	浅井政晶	佐藤悠陽	伊川友莉夏	昇高公太
伊藤紗優香	大西涼太	石原帆人	内田水葵	川原薫愛	三本松拓実	武田昌磨	湯澤怜奈
小倉一真	深澤隆嘉	坂本類	田中段	伊藤駿希	内藤江理佳	平田葵衣	鬼島健悟
島山つむぎ	酒井恵都	坂本類	栗本恵麻	渡邊慶	山本つばさ	山本陽菜莉	
明名陽仁	眞野明人	大成彩未	薄井虹成	杉田蒼	伊藤悠貴	山本多加那咲	菅野大誠
新田川紗矢	志水悠翔	今井莉渚	福持輝	伊藤悠貴	山田史佑	山田力弥	田村優理
吾子瑛恋夏	滝沢武尊	小嶋凛久	遠藤不菜	平野有真	尾高陽太	瀧澤沙羅	中西珠梨
川口瑛太郎	大場葵衣	鷺頭令弥	川野樹紀	所美奈	鍋岡澤	金子夏樹	徳田絹依
内田結音	中平詩麻	池上欲	松山真壽	三上蒼一郎	田代進暉	今井翔大	尾上優香
小網杏	則本千泰	西川晴翔	岡田蒼太郎	岩瀬美楓	石戸英治	佐々木涼汰	向山愛菜
菅原聡元	福元里歩	瀧澤蓮太郎	比下陽登	古谷樹吹	杉本樹	櫻井志希	木曾幸之介
林柚希	千葉晴太	北原晃晴	比下陽登	貝塚心都	横山陸	青木寛	林美由子
天野滯	渡邊奏士郎	梅澤みずき	村田渚羽	島本幸依	大友悠暉	平塚千晴	阿部途也
小池史紗	田頭紬	木村咲輝	細琴葉	矢野真翔	塩田結莉菜	池田唯姫	戸田葉心
橋本悠生	大矢亜希	佐藤佑紀	服部一葉	矢野睦翔	矢野紗羽	関根颯真	石野志
丸山るか	佐伯旺亮	田原陽	乗井建人	矢野睦翔	塩田結莉菜	池田唯姫	戸田葉心
高堂はみ夏	弓場未槻	伊藤莉奈	青柿空	辻本玄	矢野紗羽	関根颯真	石野志
佐藤聖	山田唯零	秋本一晴	浅井那那花	鈴木百花	武田澪	柏木優惟	寺井栞那
山中琉禾	相原弘宇	木元夏目	名原日那花	鈴木百花	武田澪	柏木優惟	寺井栞那
八木陽与莉	菊川凌空	会坂宗馬	名原日那花	松井さわ	豊田麗七	秋山紗江	竹内彩貴
久保田夏帆	山室奈穂	鈴木太一	澤崎百萌	久保遼太郎	堤口光	飯村漣太	福重咲奈
林美樹	錦織蓉	富永權	追分詠葉	佐藤榮真	石田瑞樹	大田朝陽	森久保領
岸田果来	宮崎晴己	宇野美愛奈	九十歩慧太	重田眞帆	福井風雅	大塚智裕	森久保領
高橋虎生	青山晃樹	大友一真	下村和音	柳井和花	八木紬	岡野充希	高江仁那
清水つむぎ	中川瑞白	鈴木通大	西田英志	石川英佑	西谷舞香	井口すみれ	高江仁那
寺澤凛	近藤葉月	村松圭伍	山崎楓太	魚田結花	古高志太	河上優花	柴田岳
蓮尾美遥	若山伊織	兼浜朱悠	山口晴菜	後藤知花	古屋沙来	山崎陵平	安座間雪
加藤奈々未	鶴野航士	浅野薫	河野良祐	橋本凛	遠藤陽葵	金子玲生	川崎穂々花
小林快史郎	倉持七摘	箕輪結菜	新子真悠	助村洗成	須藤美紗樹	伊藤百奈夏	松田奈々
杉森友都	櫻井彩絢	窪田陽	立花湊人	中崎結菜	榎美海	佐藤夢	小西瑛士
村上健太郎	田中友貴	戸塚梨心	佐藤弘和	秋元奏佑	鈴木隼翔	石倉維音	中村瑠里
岩崎結実	江沼尋斗	高橋美月	若林弥希	田中未来	鈴木咲翔	佐々木和真	福田眺斗
波賀奏真	吉川晃利	赤石澤岬	秋山瑞来	叶康太郎	高良希	大谷啓統	伊藤あこ
松岡怜奈	武笠袖乃	赤石澤岬	山田恭平	青戸一花	森田此光郎	杉野恭晴	杉野恭晴
津山祈音	平野七海	五條芽彩	佐藤優珠	福田怜花	廣田大知	長島朱里	越智惺
磯村友花	関口誠	脇谷伊之助	浅子啓	吉田依舞	宮下陸	鈴木悠太	河北侑大
石井日菜	宮坂一十野	片山裕梨	千葉琉煌	大橋司渚	濱田更玖	向井祐貴子	志村知香
長住帆華	竹内那歩	鈴木暖	加藤那央多	りー恵羽	前川幹太	市坪一咲	力丸美輝
藤原貴	吉本依千乃	今川陽貴	富田紗菜	上原令雄	金子航大	堀井萌生	瀬野尾歩花
小俣夏貴	岡本佳弥	湯浅碧斗	大崎利央奈	山楚光凛	向山明音	堀井咲月	田中健
		森山瑛太			関根莉乃	中川風花	金高碧華
					関川真悠	大塚蓮	船谷光

創立七十周年記念園遊会

副園長 草村敏子

新しい元号の「令和元年」を迎えた記念の年に、大宮幼稚園も創立七十周年を迎え、12月9日大変寒い日ではありますが、園庭で園遊会を開催しました。

御来賓には大宮八幡宮の責任役員様方、敬神婦人会の会長様、氏子青年会の会長様、裏千家母と子の茶道教室で教授して下さる先生、さらに十年前にさかのぼる歴代の父母の会会長さんや副会長さん方が大勢お越し下さいました。

司会者の次第進行で開会の辞が述べられ、全園児が「神前拝詞」を唱和して園長先生の挨拶となり、次に創立二十周年を記念して作られた「園歌」を斉唱しました。

そして、次々と繰り広げられた素晴らしいお琴の演奏と素敵な歌を聴かせて頂き、大宮幼稚園の光り輝



く一日となりました。その中で最大のイベントである「風船リリース」は、苦心惨憺したヘリウムの調達から当日の風船ふくらましにご協力頂いたすべての皆様のお蔭で、寒さを吹き飛ばすくらいに色とりどりの風船と白い鳩の風船が「5・4・3・2・1おめでとうー」の合図で子ども達の歓声と共に天高く上がっていきとてもきれいでした。六十周年には考えも及ばなかった「ドローンの空撮」が風船リリースで実現し、園庭に集まった約800名の人の笑顔を撮りました。(表紙を飾っている写真がドローンで撮影したものです)

先人の恩恵をうけながら七十周年目のバトンを受け継ぎ、これからも教職員は心を一つにして神様を敬い創造力豊かな子どもたちを育み十年後の八十周年を目指したいと思っています。そしてどんな新しいことが待っているのか楽しみです。

最後になりましたが、ゲスト出演して下さった演奏家の皆様、素敵な声で司会進行をして下さった司会の方、音響を担当して下さい下さった方、陣頭指揮を執って下さった今年度の父母の会会長さん、大活躍の役員さん方、役員さんを支えて下さった幹事さん方に厚く御礼申し上げます。

戌の日詣りは

聖母大神・子育て八幡さまの当宮で安産祈願祭を！

※戌の日以外でも随時お受けしております
ご祈願の方には安産腹帯(大宮八幡息長帯)と共に、へその緒で結ばれたお母様とお子様健康にご出産の時を迎えられますようにとの願いが込められた「母子緒守」と「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。



戌の日早見表

(令和2年1月5日)

1月	8日(水)	20日(月)
2月	1日(土)	13日(木)
3月	8日(日)	20日(金)
4月	1日(水)	13日(月)
5月	7日(木)	19日(火)
		31日(日)

は大安の日です

